

GWの農作業

1. 初春の軽井沢

例年初の軽井沢は4/25頃ですが引越の関係上行けず、今年初の軽井沢は、4/28～5/3の予定でしたが、自宅に用事が出来たので、4/28～4/30の短期間になった。今回の軽井沢の目的は、珍種高山植物が海外から届くので、これらを植え込むことが主目的で、続いて軽井沢の宿根草(クリンソウ、サクラソウ、忘草、ギボシなど)を引き抜き、自宅に持ち帰り植え込むことであった。高山植物は種類別にブレンド土を作り、特にアツモリソウは、ブレンド土を作りが育てるノウハフになるので準備が大変である。

関東は新緑の芽吹きなのに、軽井沢は寒々としており、新芽が顔を出し掛けたところである。真黄のドイツレンギョウ、ラッパ水仙が清々しく引越で疲れている僕を気持良く迎え入れてくれた。原種チューリップは可憐で、自宅には原種のチューリップや水仙の球根を今秋に植え込む予定である。



早春の庭



原種チューリップ

2. 農作業

まだ、GWである。5/3に軽井沢から帰宅予定が4/30に帰宅しているから、GWを利用して野菜を栽培する畑作りに費やした。ですから、泳ぎも散歩もしないで、毎日8:00～日没迄庭に出て庭の一部を畑にしようと農耕作業の明け暮れで20:00には爆睡である。幅1m×長さ15mのウネを作り、土地が粘土質で野菜の発育に不適なのでJAに出向き酸性→アルカリ性に変えるために石灰×20kg、肥料として発酵牛糞×40Lと化成(カリ、リンサン、チリ)×20kgの一部を畑に混ぜた。併せて、粘土質を柔らかくするために、土壌改良材のFFCエースの粒状培土(赤塚物産製)×15kg×10袋を木や花を植え込む土地(150坪)に1.5日掛けて散布した。高価品であるが、植物を育てるには最善を尽くすことにした。

軽井沢からはタラの芽、山薺、ウドを持ち帰り、知人から頂いたネギ、アシタバ、オカワカメ、ミョウガ、アスパラ、ヤーコン及び種としてアサツユ、オクラ、花オクラ、モロヘイヤを巻いた。台所の片隅(土の無い所)で不安げに芽を出していた小芋、JAからは茄子、キュウリ、トマト、ししとう(甘いトンガラシ)、ごうや、イチゴ×各2本の苗を買い求め植え込んだ。畑を作ったのも野菜を栽培したのも初経験で収穫が楽しみである。その後、トマトの苗を13本頂き、トマトが15本になり収穫時は大変だと思う。

新鎌ヶ谷は風が強いので、ビニール袋を半分に切断して、四隅に棒を立て風除けを設けた。我家は高台にあり、冬の澄み切った日には霊峰富士山が見え、太陽が涼む夕方は西空に真っ赤な太陽や夕焼けが実に見答えがある。そのうちに住宅が立並び、景色が消えるだろうが、今は高台からの遠方の景色が美しい。



野菜の風防止



西に沈む太陽



夕焼け



敷地内に井戸を掘る

3. 敷地内に井戸を掘る

庭の木や花の水やりに毎日1時間強費やしており、水道代が高い費用になるので敷地内のデットスペースに井戸(作業員×4名で井戸の深さ27m、1.5m毎に14断面を掘り抜き最後は砂利層から貝殻が現われ、水量は豊富で水質も良好)を掘り、水やりに井戸水(地下水)を惜しみなく使用している。

2015年5月24日
横林寛昉